

CIOにとってIBMのダイナミック・インフラ ストラクチャー・ビジョンが意味するもの

未来企業の創造におけるCIOの役割



目次

- 2 運用課題、コスト、ビジネス上の懸念が「巨大な嵐」を生み出している
- 4 ダイナミック・インフラストラクチャーに対するIBMのビジョンとは
- 5 変革への渴望が重要な機会を生み出す
- 6 グローバルな統合によってCIOは世界を小さくできる
- 7 大げさなジェスチャーではなく、本当に努力する
- 8 この現状から目標を達成することができる
- 11 IBMの自社データセンターの変革

はじめに

「成功を取めた企業を中心に、優れた運営を行っているIT組織がある」ということは、もはや周知の事実です。また、すべてのCIOは、効率的、効果的かつ回復力のあるインフラストラクチャーは優れたITオペレーションにとって不可欠なものであるということを理解しています。コンピューティング・キャパシティと情報可用性の爆発的な成長は、ますますダイナミックになっていく市場とともに、近年のビジネス革新において重要な役割を果たしてきました。しかしこの力は、輝かしいサクセス・ストーリーを可能にしたITインフラストラクチャーそのものを圧迫し始めており、新しいアプローチの必要性を増加させています。

事実、今日のデータセンターのすべてが、直面する需要に対応するように作られているわけではありません。膨大な量の重要データが、容易に統合することができないサイロに存在しています。そして、その結果生じているサーバー、ストレージ、ネットワークの無秩序な拡大(多くの場合は大陸や海を越えて)は、著しく複雑化していくIT環境を運用・管理する必要があることを意味しています。このような複雑さは、IT部門が新しいビジネス機会に対し新しいテクノロジーを用いて十分なスピードで変革を取り入れる、あるいは拡大するビジネス・ニーズのために十分なITリソースを効果的に投入することを極めて困難にしています。

とはいえ変化は永続的であり、非常に近い将来の「次世代エンタープライズ」の到来を予測させます。IBMが、「今がダイナミック・インフラストラクチャー・ビジョンについて考え始める時だ」と確信するのはこのためです。ITをより効果的でビジネス目標、新しい機会を活用するために必要なサポートの提供、競争力の確保に合致したコンピューティング・モデルによるITサービス提供の再集中化アプローチを取り入れます。

運用課題、コスト、ビジネス上の懸念が「巨大な嵐」を生み出している

分散インフラストラクチャーにおける運用の複雑さのために、望ましい速度での変革が妨げられている、と多くのCIOは語っています。さらに、こうした分散環境の運用は、すでに厳しくなっているIT予算に占める比率を増大させており、CIOが企業の変革を進める開発活動にリソースを投入することを妨げています。結果として、この「巨大な嵐」は真のデータセンター変革を推進させる圧力となっています。

物理的なインフラストラクチャーと、これを収容するために必要な施設の爆発的な増大は、さらなる電力・冷房のニーズがあることを示しています。高額な電力料金(一部のエリアでは上限が設定されている)により、組織はさらなるエネルギー効率の向上を余儀なくされています。サーバーおよびストレージの無秩序な拡大に関連したエネルギー・コストだけでも、次年度IT予算で10%未満から30%へと上

ハイライト

サーバーおよびストレージの無秩序な拡大に関連したエネルギー・コスト単独でも、次年度IT予算で10%未満から30%へと上昇する可能性があります。

医療用画像と大量の非構造化情報は、テクノロジーの変化が新しいインフラストラクチャーの必要性を増大させている2つの分野となっています。

昇する可能性があり、CIOには、今後の拡大が可能なフレキシブルな基盤を開発して、さらなるコスト管理をするよう圧力がかかっています。一方で、不動産コストの高騰は容易に支出を悪化させ、設備コストはIT予算の多くを費やすこととなります。

もちろん、コストだけがCIOの懸念ではありません。CIOの多くは、これらの分散型モデルにセキュリティと回復力を持たせることにも困難を感じています。さらに、e-メールやインスタント・メッセージ(かつてはその他のビジネス・アプリケーションと比べて重要性が低いと見なされていた)などのITアプリケーションに多くのビジネス・プロセスが依存するようになったのを見れば、CIOが彼らの現在のデータセンター・モデルに深刻な課題があると見ていることを容易に理解できます。

新しいテクノロジーが広まると何が起ころか

強力なコンピューティング・ソースおよび高密度ストレージ・デバイスの出現は、一部の産業を他よりも急速に変化させています。

医療用画像は、診察および治療における飛躍的進歩を後押ししており、医療用デジタル画像の数と規模の急激な増加を招いています。数年前まで二次元で1 MBのサイズであった医療用画像は、現在、四次元で1 TBのサイズとなっています。2010年までに世界中のストレージの30%がこのような医療用画像によって占有されると予測されます¹。

金融サービス業界は、世界の市場に影響を与える事象をよりうまく把握することが可能になります。そこではスピードが勝者と敗者を分けます。市場データの量は、2006年の1日当たり50億メッセージから、2010年までに1日当たり1,300億メッセージ近くまで急増するでしょう²。この結果起ころ、さまざまなシステム間で共有されている情報の増加はまた、リアルタイム分析の需要を高めることとなります。

通信サービス業界では、世界の携帯電話加入者数は、2002年のおよそ10億人から、2010年までに40億人を超える成長を見せると予測されます³。

既存のインフラストラクチャーではこのような急激な増加に対処することはできません。より大量のデータへより高速なアクセスという要件を満たすためにデータセンター設備を改良することが、今後5年間の主要なITの使命となるでしょう。

ハイライト

未来を見通すと、テクノロジーの進歩という圧倒的な変化とビジネス改革への圧力という、この運用課題を増大させる組み合わせは、ほとんどのCIOに深刻な不安をもたらしています。同様の不安を持った1,130人ほどのCEOは、未来企業は広範で不確実な変化による加速が特長であるとみています。しかし、IBM Global CEO Studyが報告しているように、これらのCEOはこの変化に対抗するのではなく、これを受け入れています。彼らは、グローバルな統合、ビジネス・モデルの進化、新たな企業の社会的責任といった変革を含んだ変化に重点を置いた新しいエンタープライズ・アジェンダを設定しています。そして自社のIT部門にこの変化を推進させようとしています¹。

現在の状況において前向きな発想を持ったCIOには、企業へのITサービス・プロバイダーとして、そしてITのエグゼクティブ・リーダーとして、未来企業の創造において重要な役割を果たすという特別な機会が与えられます。この課題に対する最善の対応のひとつは、ビジネス主導のITサービス・モデルへとデータセンターを変容させることでしょう。この新しいモデルは、コスト、複雑性、回復力、セキュリティに関する今日の運用上の課題を越えて、未来企業をサポートすることができるより反応性が高くダイナミックで機敏性のある環境を提供します。この新しいモデルがダイナミック・インフラストラクチャーです。

ダイナミック・インフラストラクチャーに対するIBMのビジョンとは

ダイナミック・インフラストラクチャーは効果的なITサービス提供への進化的なアプローチを可能にし、ビジネスの変更と革新を推進する柔軟性の提供を支援します。ITサービス提供への新しいアプローチによって、CIOは、ITサービスおよび情報へのダイナミックかつシームレスなアクセスの提供と、生産性と満足度の改善を支援することで、コスト管理の向上、運用効率と回復力の改善、ビジネス・ニーズへの迅速な対応を実現することができます。

ダイナミック・インフラストラクチャーの目標は、以下の企業目標の達成を支援することです。

- **新たな経済性:節約またはコスト削減の漸進的な改善だけではなく、仮想化による最適化されたシステムとシステム・リソース全般にわたるネットワークによる劇的な改善。**これは、アプリケーションを基盤リソースから分離して、ポータビリティと基盤コスト構造を大幅に改善することで達成されます。
- **サービスの迅速な展開:質の高いサービスを迅速に提供する能力は、あらゆる規模の事業にとって非常に重要なことです、基盤インフラストラクチャーおよびサービス・レベルの管理は質の高いサービス提供を維持する上で非常に重要です。**どのような規模であれ、自動化を強化し、重要なビジネス情報をより効果的に参照し管理することを可能にする、高度に成熟した、堅固で統合されたサービス管理戦略が必要となります。

ITサービス提供の新しいアプローチによって、CIOはコスト管理を向上させ、運用効率と回復力を改善してより迅速なビジネス・ニーズへの反応性を実現することができます。

ハイライト

統合されたデータセンター環境への動きは、注意深く検討され、包括的かつ十分に調整されたアプローチによって行います。

ダイナミック・インフラストラクチャーのメリットを認識する

多くの企業がすでにダイナミック・インフラストラクチャー・モデルの導入を開始しています。事実、大企業の30~50%が統合を行ったか現在統合を行っており、ほとんどの企業が何らかのレベルの仮想化を行っています。実際にこれらの取り組みを推進してきた企業は、著しいコスト削減を実現しています。

IBMのお客様およびIBM自身のデータセンター変革で次のことが可能になりました。

- 資産利用率を3倍に増加
- 新リソースを数分で供給
- 最大60%の熱量を削減
- 80%のフロア面積を削減

まさに、IBMとお客様の取り組みは、最終収益と新しいイノベーション・プロジェクトを実施するために必要なテクノロジー・リソースおよび人材の確保に影響を与えています。

- ビジネスとの緊密な連携:高度な効率化と共有インフラストラクチャーは、速やかに優れた決定を行うためのリアルタイム情報への容易なアクセス、発生する課題に単に対応するのではなく予測するなど、組織が迅速に新しいビジネス・ニーズに対応することを可能にします。

それでは、どのようにこれを実現しますか？ 統合されたデータセンター環境への動きは、注意深い検討と包括的かつ十分に調整されたアプローチによって推進されます。

ダイナミック・インフラストラクチャーの各領域における漸進的な改善によって全体的なオペレーションを改善することができますが、ひとつの領域における改善は別の領域における負担になることがあるという点を認識することも重要です。例えば、統合された情報をエンド・ユーザーに提供することは、セキュリティーおよびビジネスの回復力の観点では負担となる場合があります。高度に仮想化したリソースを構築するには、強力であり統合されたサービス管理手法を必要とします。統合は、システムの最適化とエネルギー消費削減を意味し、データセンター内のシステム密度を高め、最終的には正しく設計、導入されていない場合は「熱溜」を作ってしまうことになります。またこのような統合の努力は、残りのサーバーの高い可用性要求を作り出します。

明らかに、これらの重点領域は相互に無関係な課題として見ることはできません。ひとつの領域における改善は、別の領域でその改善をサポートするツールやテクノロジーとマッチしなければなりません。また、サービス・インフラストラクチャーの管理は依然として、データセンター変革における重要な課題です。ITおよびビジネスのプロセスおよびサービスが継続して統合されていくにつれ、サービス管理はITおよびビジネス・サービスの管理・自動化においてますます重要な役割を担うようになります。最終的には、ひとつの変化がどのようにインフラストラクチャーの複数の側面に影響するかを理解することが、ビジネス・ニーズをサポートするITサービスの提供を推進する上で主要な戦略的要素となります。

変革への渴望が重要な機会を生み出す

IBM Global CEO Studyに参加したCEOの83%が社内に大きな変化が必要であると答えています。これまでに変化の導入に成功したと答えたのはわずか61%でした⁶。予期される変革へのニーズとそれを管理する能力のギャップは、2006年のIBMのCEO Studyから3倍近くになっています。またこれは、企業内の主要なビジネス変革推進者として特別な位置にあるCIOにとって大きな機会があることを表しています。

ハイライト

CIOは、企業全体の変化の触媒として機能し、変化に対応するのではなく変化を生み出すことができるのです。

データセンター変革の背景にあるIT戦略は、ビジネスの柔軟性の向上をもたらすことができます。

CIOは、組織を効果的に機能させるための主要なプロセスと情報に対する特別な理解によって、企業全体を見渡すことができます。つまりCIOは、企業全体の変化の触媒として機能し、変化に対応するのではなく変化を生み出すことができるのです。ダイナミック・インフラストラクチャー・モデルに向けて動き出すことで、CIOは未来企業の実現を助けることができます。その中でCIOは、以下の主要素を統合する戦略を導入することで、コストを低減し柔軟性を高めることができます。

- 高度に仮想化されたリソース:アプリケーション、データ、基盤物理リソース間の関連付けを取り除きます。変化するビジネス・ニーズにうまく適合し、反応のよい供給と効果的なリソース活用率を実現します。
- 効果的で環境に配慮した、最適なインフラストラクチャーと施設:仮想化インフラストラクチャー間の作業負荷のバランスを取り、電力消費をビジネス処理要件と整合させます。
- ビジネス主導のサービス管理:管理業務を個々のリソースを監視するだけのものから、その反応性と効率性を高めることでIT環境全体を編成するタスクへと引き上げることで複雑さを軽減します。
- ビジネスの回復力とセキュリティー:データセンターの統合とシステムおよびデータの再集中化によって、回復力とセキュリティーに関するアプローチおよびベスト・プラクティスはますます重要度を増しています。
- インフォメーション・インフラストラクチャー:サービス・レベルを高め、コンプライアンス要件を満たし、総コストを削減するエンドツーエンド型のアプローチによって、増加する情報の管理を可能にします。

例えば、ある大手自動車販売会社のCIOは、オンラインでのローン申請にどの程度の時間がかかるかを示すメーターが含まれたダッシュボードを持っています。CIOは、この重要業績評価指標が一定レベル以下に低下すると同社の事業は成り立たなくなるということを理解しています。しかし、そのレベルに達する前にダッシュボードがCIOに潜在的な問題についてのアラートを発するため、CIOは事業に悪影響をおよぼす可能性のあるサービス品質の問題が発生する前に、IT関連の遅延を調査、診断、解決することができます。

グローバルな統合によってCIOは世界を小さくできる

事実上あらゆる分野の企業は、新しい市場への参入、専門技術リソースの入手のために、グローバルな統合を活用する方法を模索しています。IBM Global CEO Studyによると、業績の優れた企業は他の企業よりもグローバルに最適化された業務デザインを選び、より頻繁に協力関係を構築し、買収合併を頻繁に行う傾向があることが分かっています⁷。

ハイライト

共通基準はダイナミック・インフラストラクチャーの鍵となる考え方で、世界中でシームレスな情報フローを実現する上で重要なものです。

CIOは、グローバルな統合に対する運用、テクノロジー、そして文化障壁をも打破することで世界を小さくすることができます。特にテクノロジーは、アプリケーションと共通データ戦略のグローバルな統合、どこからでも、どんなデバイスからでも、いつでも、を可能にする通信とアクセスの改善によりグローバル化を可能にします。適切なインフラストラクチャーを持つグローバルに統合された企業では、グローバルなコラボレーションにおいて重要となったe-メールやインスタント・メッセージによるコミュニケーションなどの情報が世界中でシームレスに流れています。共通基準はダイナミック・インフラストラクチャーの成功にとって不可欠であり、それを実現するためにも同様に重要です。

例えば、ある大手金融機関のヘルプ・デスク/サービス組織はサポートのために「フォロー・ザ・サン」アプローチ(3拠点による24時間体制)を用いています。同社のサポート・センターはすべて共通のプロセスおよびテクノロジーを使用しているため、世界中、つまり「フォロー・ザ・サン」で、センター間で問題をやり取りすることができ、常に世界のどこかでは営業時間または標準シフト時間であるというメリットを活用しています。ヘルプ・デスクは文字通り365日24時間体制で問題解決に当たることができ、これによってビジネスへの問題の影響が軽減され解決が早められています。

大げさなジェスチャーではなく、本当に努力する

社会的な関心を持つ新世代の顧客、従業員、株主、パートナーが、特に環境に関する企業の社会的責任に注目するようになってきました。IBM Global CEO Studyによると、70%近くのCEOがこれをプラスのトレンドと考えていて、これらの問題の対応により大きな投資をコミットしています³。

ダイナミック・インフラストラクチャーによって、ITの環境への影響を減らし、組織の社会的責任を高めます。

CIOは環境保護活動を手本として主導し、全社のエネルギー消費を減らす特別なポジションに位置しています。ダイナミック・インフラストラクチャー・モデルは、ITの環境への影響を減らし、統合と仮想化によって大幅なエネルギーの節約を可能にします。CIOはさらに、使用済みのハードウェアを確実に廃棄することで、環境廃棄物に対する懸念を低減できます。そして従業員のモビリティ構想にITのサポートを提供することで、長距離通勤によるエネルギー消費を減らすこともできます。

統合と仮想化を含む新しいテクノロジーは、あらゆる規模の企業において、データセンターのエネルギー消費とエネルギーコストの低減を助けています。

2007年5月、IBMは環境に配慮したIT対応の業界でもっとも野心的な活動を、お客様と社内に向けて発表しました。それ以来、IBMは幾度も革新的および独創的な問題解決方法で、2,000社以上のお客様に、ハードウェア、ソフトウェア、サービス・テクノロジーを実装して、データセンターのエネルギー消費の低減と40%以上のエネルギーコストの削減を支援してきました。

ハイライト

例えば、スイスのあるIT企業によるエネルギー効率が高く高度なセキュリティーを備えた新しいデータセンターの建設を支援しました。この新データセンターでは、従来のデータセンターよりも使用熱量を著しく低減していますが、排出する熱は依然としてインフラストラクチャーの副産物として存在します。そのため同社では、単に熱を環境に消散させるのではなく、これを現地の公共スイミング・プールを温めるための熱として使用するという革新的な方法を見つけ出しました。また、このエネルギー節約によって同社が優れた投資回収率を達成した一方で、同社が社会的責任を果たすIT上の決定を行ったという認知によって、すべての関係者にとって有益な状況が生まれました。

標準化を採用することで、不要なITの複雑さが解決され、可視性と柔軟性を高めつつリスクを軽減することができます。

標準化の拡大はなぜ柔軟性の拡大につながるのか

ダイナミック・インフラストラクチャーの主目標のひとつが柔軟性の拡大であるにもかかわらず、それを実施するための主要な処方がサーバーとストレージのアーキテクチャーからIT管理プロセスまでの全面的な標準化の拡大であるということは意外なことかも知れません。これは、根本的な矛盾をもたらすでしょうか。

実際には、組織が柔軟性を求めるほど、標準化はより重要になります。複雑性(今日の国際的組織モデルの主な特徴であると私たちが認識しているもの)により、システムを麻痺させるようなミスがあると発展を著しく減速させるという懸念があり、変化は高リスクな活動となります。ご存知のように、一つの事を修正すると結果以外の別の何かを壊すことがあります。

しかし、実現可能な範囲で標準化を行うことで、組織がインフラストラクチャーの変更を行う前に検討しなければならない選択肢やシナリオの数を減らせます。これで、アンサンブルやクラウドによって現実的な展望が可能になります。 unnecessaryな複雑性を除去するか遮断することで、IT組織はより迅速に行動することができます。例えば、世界中で一貫したエンタープライズ・アーキテクチャーを確立することで、全体像を把握し、思わぬ落とし穴を避けることが容易になります。

同時に標準化は、変更する必要がある項目を減らすことでリスクを軽減し、その結果、失敗する可能性のある項目を減らすこともできます。

この現状から目標を達成することができる

多くの先進的CIOと同じ考えをお持ちの方は、おそらくすでに、ダイナミック・インフラストラクチャー・モデルを確立するために重要な活動を始めていることでしょう。サーバーやストレージの統合と仮想化、データ・サイロの解体、情報可用性の最適化のための新たな方法の模索など、現行のITインフラストラクチャーに対して取り組んでいるはずで、それが意味しているのは、現在の状況や優先順位を考えた上で、変革の計画を開始する必要がある、ということです。

現在の自社の状況と優先順位を考慮して変革の計画を開始する必要があります。

ハイライト

IBMはこの取り組みの採用段階を明確化しています。それは、単純化(Simplified)、共有化(Shared)、ダイナミック(Dynamic)の3つです。相互に排他的ではありません、それぞれはダイナミック・インフラストラクチャーの展開が、連続して進行する中でさまざまなメリットをもたらします。

単純化段階では、データセンターおよびストレージ、サーバー、ネットワーク、情報などの物理インフラストラクチャーの統合を行います。類似のリソースをプールに結合させ、エンドツーエンドのシステムとネットワーク・ツールを展開することで、企業はデータセンターの管理を単純化して、回復力とセキュリティーを強化できます。サービス管理は、新たに統合したITと業務サービスの自動化とモニタリングに対して重要性を増します。

共有化段階は、すばやく、効率的にスケールアップ可能で、設備やエネルギーに制限されない共有ITインフラストラクチャーの構築に焦点を絞っています。ここで、サーバー・プラットフォーム、ストレージ・システム、ネットワーク、情報、アプリケーションの高度に仮想化したリソース・プールを作成することで企業は効率と柔軟性の向上を手に入れ始めます。これによって、それぞれの同質のプール、ないしは「アンサンプル」を単一リソースとして管理できるので、スケール・メリットが得られ、オーバーヘッドが減少します。大規模にプールされたリソースによって、利用率が向上し、エネルギー効率が改善され、サービス提供がさらに柔軟になり、IT環境全体が業務の要求によりうまく対応できるようになります。リソースはもっとも必要とされる場所になめらかに流れていきます。

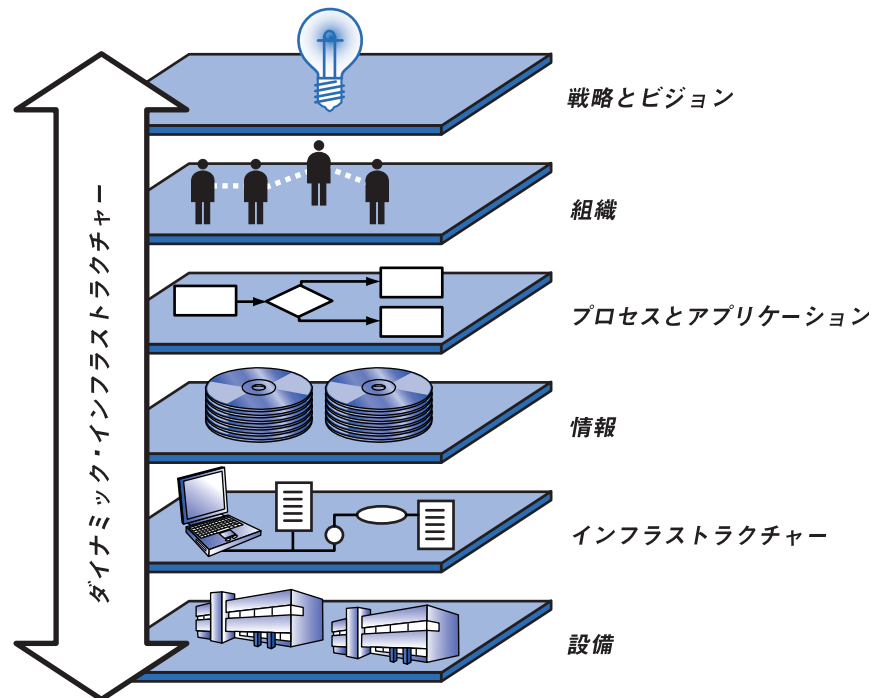
サーバー、ストレージ、ネットワーク、そしてアプリケーションのリソース・プールを仮想化することによって、個々の企業はその他の方法で享受することができない規模の利益を得ることができます。

管理の改善ニーズが重要性を増しているため、この共有環境によって、新ITリソースのすばやく容易なプロビジョニング(供給)が、それが売り上げの季節変動への対応であっても、新アプリケーションや業務サービスの投入であっても、必要に応じて可能になることに注目しなければなりません。この柔軟性と反応性の劇的な向上は、ポリシーに基づくサービス管理によって可能になりました。これによって、プールされた資産はサービス・カタログにより容易にプロビジョニングし、集中管理することができます。

データセンターは「環境に配慮した設計」が施され、電力の利用方法だけでなくキャパシティーの追加、必要であればどんなレベルにでもスケールアップできます。

最後に、共有インフラストラクチャーによって、負荷とデータの移動、管理、バランス保持が可能です。データセンターの電源、冷却システムを接続するエネルギー管理ツールがさらにエネルギー効率を改善します。データセンターは「環境に配慮した設計」が施され、電力の利用方法だけでなく必要に応じて、キャパシティーの追加や、どんなレベルにでもスケールアップができます。

ダイナミック段階では、真の柔軟性と自由を達成できます。提供するサービスと基盤インフラストラクチャーの物理的な結合はなくなり、ITのクラウドが生まれます。これでようやく、どこで実行されるのか、気にすることなく、新サービスをすみやかに稼働させられます。例えば、ユーザーは構築や提供の方法を気にせずに、単純に新サービス、あるいはサービス品質レベルを要求できます。要するに、基盤のITインフラストラクチャーの複雑さはユーザーからは「隠され」ます。自動化と最適化もされます。そして、ITサービスが、特定のテクノロジーではなく、サービス・レベルで提供されているとすれば、ビジネスを混乱させることなく、可能な限り費用対効果を高めるように、リソースを変更する余地を持つことができます。



ダイナミック・インフラストラクチャーへの変革は、人、プロセス、テクノロジーの整合性と統合を必要とします。日常のITオペレーションからリソースを開放するには、ITスタッフが故障修理的な思考から脱却できるようスキル・セットを調整する必要があります。そして、サービス提供を中心に労力を組織化する(共有環境へ向けたパラダイム・シフトを作り上げる)必要があります。これらの行動の変化はプロセス改善によって引き出されます。つまり、この新たなレベルの柔軟性をサポートするために適切な基準、規律を整備するということです。

ハイライト

IBMの自社データセンターの変革

ダイナミック・インフラストラクチャーへの変革は単独イベントではなく、バリューを提供する(人、プロセス、テクノロジーのすべての整合性を保ち、統合する)取り組みに対するコミットメントでした。

IBMはこの取り組みを何年も続けてきました。まず単純化段階から始め、さまざまなレベルの統合、集中化を経て、多大なメリットを目にしてきました。年間運用コストは最大15億ドル削減されました。1997年にIBMは、「128人のCIOにより、150カ所以上のホスト・データセンターで1万5,000のアプリケーションを稼働させている」ということを明らかにしました。その後のデータセンター変革のおかげで、現在では、CIOは1人、ホスト・データセンター7カ所で5,000以下のアプリケーションを稼働させているというように変化しています。

当社は「社内プロジェクト Big Green」で共有化段階に入りました。これは電力消費を増やさず、影響を与えることなく当社のコンピューティング・キャパシティを2010年に2倍にすると予測されています。エネルギーの節約1ドルごとに、運用コストの削減は6ドルないし8ドルになると予測しています。仮想化によって、統合された環境では80%エネルギー使用量が減り、85%フロア面積が少なくなると予測しています。その一方で、セキュリティ、回復力、在庫精度(アプリケーションからサーバーへのマッピングも含めて)が改善され、プロビジョニングが高速化され、複雑さが減り、安定性と可用性が向上します。

全面的なダイナミックITモデルへと進んでいけば、サービス提供の継続的な改善、データ分析と情報のリアルタイム統合、業務サービスとしての真のIT提供などが可能になると期待しています。

IBMは、エネルギー節約1ドルごとに、運用コストの削減は6ドルないし8ドルになると予測しています。



結論

あらゆる業界のCIOは膨れ上がるインフラストラクチャーの複雑さやエネルギーコストの上昇が自社の運用上、予算上の問題を作り出していることを深く理解しています。IBMのダイナミック・インフラストラクチャー・ビジョンは、効果的なIT提供のために革新的なモデルを提供し、CIOには、日常業務の細目を解決し、実際のビジネス改革を促進するためのツールを提供します。このアプローチによってCIOは次のことが可能になります。

- 自分自身を企業内の変化の主体と位置付ける。
- グローバルな統合の障壁を打ち壊す。
- 環境保護活動を手本として、全社のエネルギー消費削減を主導する。

つまり、CIOはITと事業目標の方向性を揃え、未来企業創造への道を開くことができます。

詳細情報

ダイナミック・インフラストラクチャーに向けての取り組みの詳細情報、またはITを事業目標と合わせ、より効果的かつ有利な位置付けを得るデータセンター・モデルにより、IBMがどのように、企業のITサービス提供に集中化アプローチを導入するかについては、日本IBMの営業担当員にお問い合わせいただくか、以下のWebサイトをご覧ください。

ibm.com/services/jp/cio/

© Copyright IBM Corporation 2009

日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木 3-2-12

Produced in Japan

January 2009

All Rights Reserved

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である可能性があります。現時点でのIBMの商標については、ibm.com/legal/copytrade.shtmlをご覧ください。他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標。

本資料に記載の製品、およびサービスが必ずしもその他の国においても提供されるとは限りません。

¹ IBM's Vision for the New Enterprise Data Center. *A breakthrough approach for efficient IT service delivery.* May 2008

² 同上

³ 同上

⁴ CIOs as masters of change: transforming their IT organizations and driving transformation across their enterprises. *CIO implications of the IBM Global CEO Study 2008.* May 2008

⁵ IBM's Vision for the New Enterprise Data Center.

⁶ CIOs as masters of change: transforming their IT organizations and driving transformation across their enterprises.

⁷ 同上

⁸ 同上



Recyclable, please recycle.

CIW03047-JPJA-02